

第52号 図書館報



津山工業高等専門学校

巻頭言

みなさん、こんにちは。

昨年度に引き続き、今年度も巻頭言を書かせていただきます。「他の方のほうが、みなさんのためになる巻頭言を書かれてよいのではないか」という思いもあったのですが、図書館司書のTさんに「図書館報の巻頭言は図書館長が書くものです」と言われ、確かにその通りだと納得した次第です。

さて、みなさんは図書館をどういうイメージでとらえているのでしょうか。図書館（室）は、小学校以来とてもなじみ深いところで、「優しい図書の先生（司書）がいて、放課後に本を読んだり借りたりした」という感じでしょうか。「しばらく学校を休んでいた友達が、特別に図書室でテストを受けていた」といった記憶が頭に残っているかもしれません。「うまくクラスになじめない子が、図書室で本を読んでいた」といった、癒しのイメージがあるかもしれません。

中学生ぐらいになると、「図書館（室）で友達と勉強した」、「ひとり調べ物をした」とか、あるいは「授業で出た宿題をグループで調べた」といった思い出も、強くなっていくかもしれません。いろいろなイメージや思い出があると思いますが、少なくとも図書館に対して、悪いイメージを持っている人はいないと思います。

私が思う図書館は、というよりも、理想とする図書館は、新しいモノやコトとの出会いのあるワクワクする空間です。みなさんは、図書館に行って新しい出会いをしたことがありますか。私は数学の教員をしていますが、数学の中でも、特に、トポロジーという分野を専門にしています。図形を扱うのですが、図形がゴムでできていると思って変形させてもよく、○や△や□が同じであるとみなす幾何学です。ドーナツとコーヒーカップも同じになります。こういった分野に興味を持った一番最初のきっかけは、中学2年生の時に読んだ寺阪英孝氏の「非ユークリッド幾何の世界」（ブルーバックス）でした。これは、平行線が交わったり、1本の定直線に対して、1つの定点を通る平行線が2本引けたりする幾何学で、最近になってまた復刊されています。

そして、大学に入ってから、本の題名は覚えていないのですが、図書館で同じくブルーバックスのトポロジーの本を読んで「おもしろい、こんな幾何学があったのか？」と思うようになり、がむしゃらにトポロジーを勉強し、卒業研究でトポロジーのゼミに入りました。

もちろん、普通の本屋さんでも新しい出会いはあるのですが、図書館には、学生みなさんや先生方のおすすめ図書がたくさんあります。新しい出会いになるように、みなさんからの要望も受け付けています。図書館には、いろいろな人たちの思いが凝縮された良い本がたくさんあります。図書館で「一生思い出に残るような、新しい出会いをしてほしい」と願っています。



図書館長
横谷 正明

— CONTENTS —

先生お薦めの本	3
ブックハンティング新刊紹介	6
図書委員活動報告	8
図書委員お薦めの本紹介	10
校内読書感想文コンクール	11
ご存知ですか、図書館の使い方	14

先生お薦めの本

先生から学生へ
お薦めの本を紹介します



先進科学系 高木 賢治

『30代の論語』 齋藤 孝：著（祥伝社）

学生の皆さん、高専生活は充実しているでしょうか。

20年ほど前私も皆さんと同じように高専生でした。なぜ勉強しているのか？や、友達とは？とよく悩んだものです。その時には感じませんでした、今思えば充実した10代20代を過ごしたと振り返ることが出来ます。

色々なことを考えていくであろう、今後の皆さんの道しるべとなるものがあります。それはつまり、若かった（高専生だった）自分にそんなに悩まなくていいぞと言ってやれるような本です。昔から人間は自分と同じようなことにずっと悩んできたのかと知ると、気楽に悩んでよいものだとながら抜け出す。それを教えてくれるのが論語です。簡略化された解説本も世に多く出ています。編纂されて2000年以上たっても、いまだに読まれるのには訳があるのでしょう。科学や技術が発展しても人間の悩むことは根本的には変わらない。読んでみるとそんなことを感じます

ここにいくつか抜粋します。

学^{まな}て時^{とき}にこれを習^{なら}う、亦^{また}た説^{よつこ}ばしからずや。
朋^{とも}あり、遠^{えん}方^{ぽう}より来^きたる、亦^{また}た楽^{たの}しからずや。
人^{ひと}知らずして慍^{うら}みず、亦^{また}た君子^{くんし}ならずや。

【訳】学び続け、常に復習すれば知識が身につく、いつでも活用できるようになる。実にうれしいことではないか。自分を思い出して友人が遠くから訪ねてきてくれる。実に楽しいことではないか。世の中の人が自分のことを評価してくれなくても、怒ったりうらんだりしない。それが君子というものだ。

【高木訳】いろんなことを理解できる、その楽しさを求めて勉強しているのではないのでしょうか。テストが多少できなくても、前向きに考えたら楽しいじゃないですか。友人に多くを求めず、たまに自分のことを考えてくれる人がいるだけで幸せ！と思えばずいぶん気が楽になりませんか。評

価とかあまり気にせず、日々自分が納得することを考えて生きていけば、いつの間にか君子（学識・人格ともに優れた人）になっているでしょう。私はそう思います。

吾^われ十^{じゅう}有^{ゆう}五^ごにして学^{がく}に志^{こころざ}す。
三十^{さんじゅう}にして立^たつ。
四十^{しじゅう}にして惑^{まど}わす。
五十^{ごじゅう}にして天^{てん}命^{めい}を知^しる。

【訳】私は十五歳で学問に志した。三十歳で独り立ちした。四十歳になって迷わなくなり、五十歳で天命を知った。

【高木訳】15歳で入学した皆さんはスタートラインに立ったわけです。そこから先はまだ長い。一時の成績や人間関係に悩まず、前向きに頑張っていってほしいものです。30代、40代、50代と様々なビックイベントが待ち構えています。（私も未経験の領域ですが・・・）その時々でよかったと思えるように、今いろいろと失敗しておくのは大事なのでしょう。十有五にして学に志してから、三十にして立つまでに何も教えがないのは、そういうことなのだと私は思います。

自己啓発本がいくらでも出版されるこの時代に、ずっと論語が読まれるのは、生き方に対する本質的な問いが、表面上は変わっても根本的には変わらないことを示しているのだと思います。30代も後半で、若さが少しずつ失われるのは寂しいですが、日々前進し、いろいろな学生や地域の人と知り合うことで、楽しい未来を作り上げていく、そんな希望を糧に日々生かされている気がします。

先進科学系 田村 俊輔

『十角館の殺人』 綾辻 行人：著（講談社）

この4月から津山高専に赴任した田村です。担当教科は数学で、私が今までに読んだ本のほとんどは数学書でしょう。昔から本を読むのはあまり得意ではなく、特にエッセイなどは苦手です。ほとんど読んだことがありませんが、推理小説だけ（最近）はたまに読みます。私の父親は私とは対照的に読書家で、年間に100冊は優に読破する程です。そんな父親から「お前もたまには本を読め」と大学生の時に薦められた本をこの度は紹介しようと

思います。正直、私がまともに読破した初めての本書でしょう。(漫画はよく読みます)

「十角館の殺人」自体は有名なものだそうで、推理小説家の綾辻行人さんのデビュー作です。同時に、この本は現在私が読んでいる数少ない推理小説のデビュー作でもあります。父親がこの本を私に渡す時「あるページをめくったら衝撃的な一行が現れる」などと意味深な言葉を放ちました。どうやらこの本は叙述トリック(読者の先入観を逆手にミスリードを誘う)の代表作の一つであり、読者を驚かせる作品だということです。本を読むモチベーションが低い私からすると、そこまでは読んでみようかなと思うモチベーションになったので、今思うとありがたい一言だったと思います。

内容についてですが、半年前に大量殺人事件があった小さな島に、ミステリー研究会に所属する大学生たちが一週間の合宿をすることになるのが物語の始まりです。この半年前の殺人事件で亡くなった中村青司と呼ばれる男が建築した奇妙な形をした建物こそが十角館であり、この物語の舞台となります。犯人はこの合宿で復讐を果たすことを計画し、ミス研のメンバーたちは不可解な死を遂げることとなります。そして終盤、我々はそのページに辿り着き、見事にしてやられるわけです。

実は、この十角館の殺人には続きがあり、中村青司がこれまでに建築してきた奇妙な建物でいつも事件が起きます。現在9つの館での物語がありますが、私はまだ4館目の物語しか読んでいません。どの作品にも巧みな叙述トリックがあり、毎度引っかかってしまいます。当然ですが、どの物語でも登場する主人公が存在するのですが、これが誰なのかを十角館の殺人で予想するのも面白いと思います。最近では、十角館の殺人の漫画版が出たそうです。個人的には(漫画版を読んだことはないですが)活字で読む方が叙述トリックに騙されやすい気がするのですおすすめです。

機械システム系 山田 貴史

今の私を形づくった一冊のマンガ 『栄光なき天才たち』

伊藤 智義：作，森田 信吾：画（集英社）

津山高専に着任して2年が過ぎようとしていますが、昨年4月より機械システム系の教員を拝命

いたしました山田貴史です。お薦めの本ということで、色々考えたのですが、今の私を形づくるのに大きく影響した本について書こうと思います。

私は、小学校を卒業して、中学・高校の6年間は岡山市内の当時は男子校だった学校で寮生活をしていました。夕方18時半までに風呂や食事を全て済ませ、消灯の23時までは、監視つきで勉強のみに集中しなければならないという暮らしでした。外出・帰省は、週末の1回のみで、門限は17時15分という、統制の厳しい生活を強いられていました。そんな中で、数少ない娯楽として、友人たちと漫画本を回し読みするというのをよくやっていました。学習時間に隠れて漫画を読んで、正座させられる者も当然いましたが…。

そんな中で出会ったのが、この「栄光なき天才たち」というシリーズです。このシリーズはいわゆる偉人伝なのですが、切り口が斬新で、農学者の鈴木梅太郎がビタミンB1を世界で初めて発見したにもかかわらず、医者ではなかったのが、当時の医学会で最初は全く認められなかった話や、アンモニアの合成で有名なハーバーが、空気から爆薬をつくり祖国ドイツに尽くすものの、ナチスのユダヤ人迫害により追放された顛末についてなど、とても印象に残る話が多々収録されています。

前置きが長くなりましたが、私が中3か高1の頃に、このシリーズの第8巻「宇宙を夢見た男たち」と出会い、私は航空・宇宙分野に進んでこれを究めたいと強く思うようになりました。

人類が宇宙に行こうと模索を始めたのは、この100年ほどの話です。この本では、ロケットで宇宙空間に行けると考案したツィオルコフスキーから、実際にアポロ計画で、月に人を送り込むことに成功したフォン・ブラウンまで、何人かの科学者・技術者が描かれています。

飛行機がようやく初飛行した頃に、宇宙に行けると主張した彼らは、最初は誰も正当に評価してくれません。それでも、宇宙に行きたいという夢をかなえるために、一歩ずつ研究・実験を進めていきます。しかし、大きな発展を得るためには開発資金が必要です。ロケットに爆弾を積めば、飛行機とは比べものにならない威力で攻撃することが可能なことに目をつけた軍は、ロケット技術者に兵器の開発を強いるようになります。軍への協力を断って、迫害・追放されるロケット技術者もいました。逆に、軍と手を結んで、ロケットの大

型化技術を確立し、後々アポロ計画を成功させた技術者もいました。

自分の壮大な夢を常に心に抱きながら、壮絶な葛藤の中で新たな技術開発に挑み、それを成し遂げてきた先達たちの足元にも及びませんが、私もただカメラで撮影するだけで、病気の検査・診断が完了するシステムや、マッハ数10で飛行する300人乗りの航空機を考案するなど、自分がいつか実現したい夢に向かって一歩でも近づけたらと思います。

情報システム系 大西 淳

『ミハエル・クルムのレーシング「超」 運転術 改訂版 新・新装』

ミハエル・クルム：著（東邦出版）

『CAR GRAPHIC 2022年8月号
No.737』（カーグラフィック）

高専の学生にはバイクが人気らしいが、私は一貫して4輪車だ。何より特に最近多い悪天候時にバイクよりも比較的快適だからだ。

そのため、学生時代からドライビングの本を読み漁ってきた。学生時代に始まったF1テレビ中継の影響で初めは中嶋悟、その後、星野一義、服部尚貴、徳大寺有恒、黒沢元治などのレーサーから果てはジャーナリスト三本和彦まで、定番のポール・フレールも読んだ。そして、最近ではミハエル・クルム著である。

著者も記しているが、ミハエル・クルムを知らない人は多いと思う。一時世界を席巻したテニスプレーヤー、伊達公子の夫と言えわかる人がいるかもしれない。著者が有名でない理由は、これも本人が記す通り、トップフォーミュラF1にたどり着けなかったからかもしれない。確かにF1ドライバーに求められる資質を著者は欠いていたかもしれない。F1参戦1年目の中嶋悟が言うように、「コースの隅々まで熟知しているF1初開催の鈴鹿なら自分も好成績をあげられるのではと期待したが、初めてのコースでも、ものの数周ですごいタイムをたたき出す」能力がF1ドライバーには必要であった。

しかし著者は別の才能に秀でていた。限られた同じコースを1年の間に何回も走り、そこで何年も戦い続ける日本の国内戦では、フォーミュラで

もツーリングでもチャンピオンになった。そこに求められたのは、ラップごとにでてくる膨大な走行データを他者よりも密に分析し、アタックごとにコンマ数秒を削る努力を人一倍根気よく続ける能力であった。そんな能力に裏打ちされたまじめな性格が日本のトップチームに好意をもって歓迎されたのであろう。本書にもそんな著者の性格が色濃くあらわれており、最新のデータ・ロギングシステムを使った分析の結果に基づくテクニックやマシンセッティングに言及されている。

ただ注意を要するのは、本書の前提が軽量（リッターカーくらい）のシャシーに600馬力オーバーのエンジンを積んだマシンであることだ。そんなマシンに起こる物理現象は市販車に起こるものとはまったく違っており、この本に書かれている内容は公道を合法的に走行する範囲ではほぼ使えない。しかし、津山高専で学んだ皆さんなら、そのような別世界の物理現象を理論的に理解し、肌感覚として実感できるものと期待して、トップレーサーしか味わえない世界をこの本で堪能してもらいたい。

とは言うものの、あまりに別世界過ぎるという人には、もう一冊CAR GRAPHIC（CG）をお薦めする。CGのこの号はライトウェイトスポーツを特集している。ミハエル・クルム著で前提にしていた軽量もたらす「慣性」の小さい世界を目指した自動車やその挙動について書かれている。高専生の皆さんにはマツダロードスターの設計者インタビューも興味深いものとなるだろう。CGだと紹介されている自動車の価格帯が別世界になりそうだが、ちゃんとスズキアルトの現行車にも触れてあるので安心してほしい。本稿をきっかけに、本校図書館に置いてある自動車技術雑誌「Motor fan」も活用してもらえようとうれしい。

なお、ミハエル・クルム著の本は絶版のようで、私が購入した時は既にAmazonでプレミア価格になっていた。しかし、津山市内の某書店に行ってみると普通に売られていたので、速攻で買った。これが田舎に住む者、実店舗に通う者の特権である。皆さんも本屋に通ってみよう。きっとかけがえのない出会いに巡り合える。

しかし、軽量で慣性の小さい世界ということになると、やはり皆さんは自動車よりもっと軽いバイクの世界に走ってしまうのか？

ブックハンティング

新刊紹介



世界で一番美しいクラゲの図鑑 リサ＝アン・ガーシュウィン：著 (エクスナレッジ)

水族館の一角で小さくぽつんと展示されている、クラゲ。ふわふわしていたり、毒があったり、漠然としたイメージがあります。実は、若いクローンを生み出して生き長らえる種類があるのを知っていましたか？そんなクラゲのスケッチや生態学と共にカラフルで多種多様なクラゲの図鑑をどうぞ。

粘菌生活のススメ 新井 文彦：著（誠文堂新光社）

ねんきんって言ったのならほとんどの人は年金？ってなる。この本は粘菌とはなにか？について、美しくて、可愛くて、不思議で、ちょっと気持ち悪くて、けどすごく魅力的な生き物について人々に知ってもらうための本である。

スカルプターのための美術解剖学 アルディス・ザリンス, サンディス・コンドラツツ：著（ボーンデジタル）

3D人体モデリングやイラストを制作する上で、人体がどうなっているか分からず困った経験はありませんか？人体の動きや構造について理解を1段階深めてくれる人体の美術解剖書です。

言いたいことは1分にまとめなさい 新田 祥子：著（明日香出版社）

好きなことについて長々と話してしまったり、逆に緊張して話を早く切り上げてしまったりしたこと、ありませんか？普段の雑談や、発表の場など話をうまくまとめて伝える力をつけるのに役立てばと思い、この本を選びました。

誰でもつくれる！UIデザイン入門

ななうみ：著（マイナビ出版）

「アプリケーションのいいアイデアが思いついた！UIデザインをしなければならなくなった！でもなにから始めていいかわからない」を解決するかもしれない、UIデザインの一步目にお薦めの本です。

数学ガールの物理ノート 波の重ね合わせ

結城 浩：著（SBクリエイティブ）

この本は主人公の「僕」と三人の少女が「波」の不思議を探していく対話型の本です。物理学と数学は密接に関係していると思ったのでこの本を選びました。「僕」達と一緒に波の不思議を追いかけるのも、「僕」達の会話を目で追うも良しの作品です。

寄生蟲図鑑

大谷 智通：著（講談社）

魚に寄生するアニサキス、カマキリに寄生するハリガネムシ、ヒトに寄生するギョウチュウなど、世の中には様々な寄生虫がいます。最近あまり身近でなくなったものの、確かに彼らは存在しています。この本はそんな寄生虫について図解で紹介する本です。

高校事変

松岡 圭祐：著（KADOKAWA）

主人公である優莉結衣は幼い頃から諸事情で身につけた化学や銃器の知識を武器とする。次々襲いかかってくる要求不明の武装勢力に対抗して総理大臣を救うダークヒーローファンタジー。そしてバイオレンス文学である。

ホーキング、ブラックホールを語る

スティーヴン・W・ホーキング：著
（早川書房）

アインシュタイン以来最も偉大な理論物理学者ともいわれるホーキング博士の一般人向けラジオ講義を文章化した本です。ホーキング博士の本は難解なものもありますが、この本は私達にも読みやすいと思ったので選びました。この本を読んで宇宙の謎に浸ってみてください。



図書委員活動報告

弥生祭等催し物班

私たち弥生祭催し物班は、メールなどを通して連絡を取り合い、みんなで集まりながら活動してきました。今年も新型コロナウイルスの影響で縮小された弥生祭となりましたが、無事開催することができて良かったです。私たちの班が出展したしおり作成と古本市では、たくさんの人を迎え入れることができました。古本を寄付していただいた先生方、そのほかお力添えいただいた方、本当にありがとうございました。

(電気電子システム系4年 吉井 風華)



読書感想文コンクール班

私たち読書感想文コンクール班は、班員全員でコミュニケーションをとりながら活動を進めてきました。

今回は昨年以上に多くの読書感想文を応募いただき、それらの作品を班員全員で読み比べ、最終的に出来が良いものを選ばせていただきました。選考に入らなかった作品にも良いものがたくさんあり、班員も頭を悩ませていました。

本を読みどう感じるか、どう伝えるかは

十人十色。来年度もたくさんの素晴らしい作品を読むことを楽しみにしています。

(機械システム系4年 中西 大輝)

図書委員は、弥生祭等催し物班、読書感想文コンクール班、ブックハンティング・交流会班、図書館報班の4班に分かれて活動しています

ブックハンティング・交流会班



私達の班は、ブックハンティングを行いました。感染拡大の防止で前期のブックハンティングが行えませんでした。今年は書店へ直接本を買いに行くことができました。面白い本ばかりですので、是非とも入口右のブックハンティングコーナーをご確認ください。

交流会の方も、今年は津山高校主催で開催することができました。昨今の情勢の中で、無事に開催できることを喜ばしく思っています。他校との交流を深める中で、得られた知見をこれからの図書委員の活動に活かしたいと考えました。

(先進科学系5年 菅原 泰生)

図書館報班

私たち図書館報班は、沢山の本の魅力を多くの人に届け、図書館利用者の増加を目標に本館報の制作を行いました。本館報の制作にあたり、沢山の先生方、読書感想文コンクール班、ブックハンティング・交流会班、弥生祭等催し物班など様々な方々にご協力をいただきました。コロナ禍の中で、上手く予定を合わせることが出来ず、班活動が遅れてスタートし、締め切りが迫ることがありましたが、皆様のご協力のおかげで今年度も無事、本館報を発行することができました。改めて、本館報の制作にご協力くださった方々にお礼申し上げます。



(機械システム系5年 亀山 郁弥)

図書委員 お薦めの本 紹介

さまよう刃

自分にとって大切な人が殺されたらあなたは復讐しますか？

長峰重樹の一人娘である絵摩が突然死体で発見される。数日後、犯人の名前と居場所を示した電話がかかってくる。電話で言われた場所へ行くとそこには、絵摩が犯人と思われる二人に陵辱されている映像が収められたビデオテープが見つかる。長峰は犯人への復讐を誓い、一人を惨殺し、もう一人も自分の手で打ち留めようとするが…。

少年犯罪をテーマとした、「正義とは一体何なのか」を考えさせられる東野圭吾の問題作です。映画化やドラマ化もされており、日本だけでなく、韓国でも映画化されています。映像としてご覧になっても頂きたいですが、是非一度、本として手に取って頂きたい作品です！

さまよう刃

東野 圭吾：著（朝日新聞社）



神様の罠

私がお薦めする本は神様の罠です。現在のミステリー界をリードする六人の作家による豪華すぎる一冊です。[夫の余命]、[崖の下]、[投了図]、[孤独な容疑者]、[推理研VSパズル研]、[2020年のロマンス詐欺]の全六話からなるミステリー短編小説となっています。最愛の人との別れ、過去が不意に招く破綻、思いがけず露呈するほころび、知的遊戯の結実、コロナ禍で狂った当たり前の日常。辿り着く先は、人間の行いによる帰結なのか、神様の差配によるものか。作者によって話の展開の仕方が全く違うので、いろんな読み方、解き方でミステリーを楽しめます！特に[夫の余命]は一度読み終わってから、再度読むと登場人物の捉え方や印象が全く変わると思います。どの話も何度読んでも楽しめる作品だと思います。ミステリー好きの方はもちろん、ミステリー初心者の方にも是非、一度手に取っていただきたいお薦めの一冊です！

神様の罠

辻村 深月、乾 くるみ、米澤 穂信、
芦沢 央、大山 誠一郎、有栖川 有栖：著
（文藝春秋）

校内読書感想文コンクール 図書委員が優秀作品を選出しました

第1位

私の消費期限

1年2組 岡田 果奈

今日、テレビやネットで天才やギフテッドと呼ばれる子供がよく紹介されている。だがもし青少年少女たちが活躍できなくなったら、年齢を積み重ねたら、天才青少年少女ではなくなり価値がなくなるのだろうか。ならば彼らの価値は年齢や才能、功績だけなのだろうか。そのような人物の苦悩や葛藤が詰め込まれた本を私は読んだ。

この本では才能や努力で活躍している時期を「ゴールデンタイム」と呼んでいる。そしてそのゴールデンタイムに、周囲の環境に蝕まれ、支えられてきた六人の青少年少女たちがこの本に登場する。標高の高い国有地の施設に集められた六人の若き元・天才たち。小説家、ヴァイオリニスト、料理人、日本画家、映画監督、棋士。一見何の関連性もないが、ただ一つ共通している点は才能が「あった」こと。皆早熟の天才でありもう枯れたと囁かれている人物だ。才能があることは得だと思われるが、本人たちにとってはそうでもないらしい。根も葉もない噂、敷かれたレール、没落することへの恐怖、周囲の反応など本人たちにしか、自分にしかわからない恐怖がある。成功のために特別なAI(人工知能)「レミントン」に従っていた彼らも最終的に自分が選んだ道を、進んでいく物語となっている。

彼らは何よりも悩んでいたのは、自分たちが得てしまった肩書きの存在。肩書きとは現代社会において便利であり、厄介なものでもある。得た肩書きが自分の道に沿っていなかったら、沿っていても才能が枯れてしまったら。まだ大人とは言えない私たちは特に肩書きを注視してしまう頃なのかもしれない。何かしらの賞をとればそれは誉となり、アイデンティティの一種となる。

アイデンティティ。別名自己同一性。高専に入学して、歴史の授業で学習した内容の一部であり、この本を再び読み感想文を書こうとした理由である。自分がほかの何者でもなく自分を自分で

と担保してくれるもの。彼らは肩書きという一種のアイデンティティに支えられていただけではなく、苦しめられてもいたのだ。これは現代社会に生きる、私たちにも関係あることだ。若いときは特に「何者」かになりたがっているといわれている。肩書きは何者かになる一つの方法ともいえる。だが、肩書きは永遠ではない。登場人物のような「幼き天才」なら尚更だ。肩書きがある日突然なくなったらそれでも生きる道を見つけられるかどうか。アイデンティティは肩書き一つではなく、特徴、短所、長所、あらゆるところから得ることができる。肩書きに依存するかどうかは、結局自分がどのくらい自分を知り、多くを見つけ、アイデンティティを確立させられるかどうかにもよるのではないかな。肩書き、社会的な地位は重要であるが一時的なものであり、自分なりの生き方をしているうえでたまたま肩書きを得てしまったくらいのスタンスで生きていきたい。そうすれば、肩書きに頼ることはないから、消費期限はうんと伸びるだろう。

(斜線堂 有紀『ゴールデンタイムの消費期限』)

第2位

本と時間とタイムマシン

情報システム系2年 菊池 蒼太

突然だがあなたは昔こんなことを思ったことがあるのではないだろうか。「タイムマシンに乗って過去や未来に行ってみたい」と。某国民的アニメを始め、夢とロマンにあふれた乗り物としてさまざまな作品の題材にもされてきたタイムマシンだが、今回私が選んだ本にもこのタイムマシンが登場する。

私が選んだのは「四畳半タイムマシンブルース」という本だ。これは「四畳半神話大系」という本の続編なのだが、前作については割愛してこの本のあらすじを説明しようと思う。時は真夏の8月12日、とあるアパートの一室に住む大学生の「私」。クーラーのリモコンが壊れ絶望していたところにタイムマシンが現れ、涼しさを取り戻そうと悪友たちを過去へ送り出したのはいいものの、むやみに過去を改変すれば世界が消滅してしまうのではないかということに気づいてしまう。辻褄合わせに奔走する彼らははたしてクーラーを

取り戻し、世界消滅を防げるのであろうかというのがこの本の大きなあらすじだ。

この本を読む前にまず思ったのが「はたしてこの本は前作のように面白いのか」ということだった。確かに前作「四畳半神話大系」は私の中に傑作として君臨しているが、本であろうと映画であろうとこういった作品の続編は前作が良すぎるがあまり、「面白かったけどやっぱり前のほうが面白かった」となってしまうことがたびたびあり、今作もそうになってしまうのではないかという不安があったが、いざ読んでみるとそんな不安は吹き飛び、私が今まで読んだ本の中でもトップの面白さにランクインしている。

この本の面白さを支えているのが個性的なキャラクターの存在だ。前作から主要キャラクターは変わっていないが、その濃すぎるといっても過言ではないキャラクターたちの個性は今作においても健在であった。まず「私」。京都鴨川のボロアパートに住む大学生で名前が作中で語られることはなかったが、理想の学生生活を送るために奔走して失敗する、夏休みに自分を変えようとするも結局だらけてしまうなど、どこか自分と重ねてしまうキャラクターだ。次に小津。「私」の悪友であり、わがままで傲慢、なおかつ人の不幸が大好物な人物で、「私」の学生生活をだめにしようと画策している。世の中には眺めている分には面白いが自分の身近にいと厄介極まりないような人物がいるという話を耳にするが、それはまさしくこの小津のような人物のことを言うのであろう。この小津だけでも十分癖が強いが、その他登場人物もクセモノぞろいなのがこの本の特徴であり、面白いところだ。

まずこの物語はクーラーが効かないアパートの一室で「私」と小津が苦しんでいるところから始まる。小津がクーラーのリモコンにコーラをこぼしたためにクーラーが使えなくなってしまったのだ。この時点で自分は「私」に同情せざるを得なかった。過去に自分も真夏にクーラーが使えなかった経験があったからだ。あの暑さと絶望感はもう二度と経験したくはないし、小津のせいでそれを経験することになってしまった「私」の気持ちは絶望と怒りに満ちていたことは想像に難くないだろう。

そこからタイムマシンが現れ、リモコンを取り戻すために動き出すわけだが、ここからがこの本

の本当に面白い部分だと思う。タイムマシンを使って前日に戻って行動するわけだが、ここでの行動がタイムマシンを使う前の場面につながっているのだ。例えば今作のヒロインである明石さんが小津からの五山の送り火見物の誘いを「ほかの人と行く約束をしましたから」と断り、「私」が誰から誘われたのだろうと疑問に思っている場面があるが、タイムマシンを手に入れた後の行動を読んでいるとこの誘いをしたのがタイムマシンを使って過去へ来た「私」だったことがわかったり、そもそもリモコンにクーラーがこぼれた原因も過去へ来た「私」の行動だったりと、「この行動がタイムマシンを使う前のあの会話につながるのか」と思わせてくれるようになっている。なので、普通に一周読んでも面白いが、二周読んでみると新しい発見があったり、繰り返し読むことを楽しむことができたりするのがこの本のとてもいいところだと思う。

そして、この本を読んだことで自分の中で時間に対する意識が少し変わった。今まで時間は未来から過去へ流れていくようなものだろうと思っていた。だが作中で明石さんが時間は一冊の本のようなものと発言しているようにすべての物事がどう起こるのかはすでに決まっているのではないかという考えもあるのだとこの本を通して知ることができた。もちろん本当のことは誰にもわからないが、わからないからこそこういった時間の話題は人々を魅了し、これからもそうし続けていくのだと思う。

(森見 登美彦『四畳半タイムマシンブルース』)

第3位 正しさと差別

1年4組 木村 銀志

差別は、なくならない。我々が正しくあろうとすることこそが、差別につながるのだから。残念ながら私自身は差別をする側の人間である。そしてまた、差別をされる側の人間でもあるかもしれない。

この本では、主にひとみと伸行という二人の男女によって物語が繰り返される。ひとみは聴覚に障害があり、インターネットの外の世界ではあまり他人とかわからうとしない。一方、伸行は入

社三年目で少し落ち着いてきたころの会社員だ。彼は中学生の頃に読んだライトノベルについてのひとみのブログを見て、彼女と接点を持つ。

私はこの本を読んで関西弁に対して違和感を覚えたのだが、それが差別につながるかもしれないと気付くのはしばらくしてからのことである。

現在、一般的に差別と言われるものは、外見や所属等を理由とする除外行為や拒否行為である。しかしながらそうしたものが無くならない背景には、各々の意識がある。したがって差別には、相手に対する負の感情も含まれるのではないだろうか。

そもそも、私は差別と区別を分けて考えるべき、という意見には反対である。区別によって、不快に感じる人、苦しい思いをする人がいるならばそれは差別である。例えば、一般に着替えをするとき、あるいはトイレは、男子と女子に分かれるが、そのとき、体と心の性が違う人などが苦しみことはないのだろうか。極論をいえば、区別とは差別である。そこに悪意があるかは問題ではない。

もちろん、実際問題我々が区別を放棄すれば、様々な問題が生じると考えられるため、区別の放棄は困難である。我々にとって重要なことは、我々が現に、差別を行っている、差別の当事者であることを自覚すること、そしてこの状況をできるだけ改善することである。それすらできない人間は、ただ責任逃れをしているだけであるから、私は気に食わないのである。

私自身はこれまで、哲学から科学まで、広く、しかし浅くなりつつも様々な分野の本を読んできたつもりだが、正しくあらうとすることはあるべき我々の姿であると考えていた。もちろん、ほかにもきっかけとなった本はあるのだが、この本によって私の考え方は大きく転換させられた。

初めて二人で映画を見に行った日、ひとみは映画館が混んでいたにも関わらず、字幕の映画を見ることにこだわり、結局それはほとんどうまくいかなかった。長蛇の列ができていたのに周りが見えていないひとみに対し伸行は怒りを感じていた。そしてそれはひとみが重量オーバーになったエレベーターに乗り続けていたことで決定的なものとなった。伸行はひとみの腕をつかんで引きずりおろし、大声で怒鳴ったが、そこで初めて違和感を覚えた。彼女は補聴器を付けていたのだ。

私も、最初に読んだときはひとみに対して納得

できず、伸行に対して同情していた。しかしひとみの聴覚に障害があると知るとそれまでの見方は大きく変わった。なんで伸行は気づいてあげられなかったのか、なぜもっと優しく言ってあげなかったのか、と。私自身、周りの目はかなり気にするほうだから、外出するとかなり疲れてしまうが、ひとみの立場であればそれは何倍も苦しいものであるだろう。

私の祖父も聴覚に障害があり、障害者手帳も交付されているが、補聴器を付けていても、大きな声でしゃべらなければ聞き取ってもらうことはできない。そのため、街中を歩いているとどうしても周りの視線を感じることもあり、少々煩わしい。

このようにして、障害のある人にだけ優しさを装おうとする世の中は、実際には障害のある人も、その周りの人もかなり生きづらいものとなる。

新聞を読んでいると、時折、優先席に若者が座っていることを嘆いているご老人の投書を目にする。勿論、体が不調なのに立っていることは辛いというのはよくわかる。しかし、その若者だって体調が悪かったのかもしれない。いや、もしかすると目に見えないだけで妊娠していたのかもしれない。このように考えると、とても簡単には優先席に座っている人を非難できないのではないかと思う。

こうした場合に道徳あるいは常識というものを主張する人間は、大抵その利己心に基づいてそのような行動をとる。私は全く利己心を否定する気はないが、多くの人が主張する道徳というのはあくまで人間の尽きせぬ利己心の上に成り立っているのではなかろうか。

日本文化と言えばよい面が多く取り上げられるが、弊害も大きいように感じられる。我々の常識と言っているものは、異質なものの排除により成り立ってきた面がある。

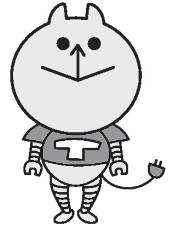
健全者と障害者の区別をせねば、我々が一般的に信じる道徳や常識というものは根底から瓦解することからわかるように、一般的な道徳や常識というものは非常に不完全なものであることを自覚する必要があるのではないだろうか。そしてそのうえで我々が互いを理解しあえるのならば、この社会は少しばかり生きやすいものになるのではないだろうか。

私自身ができていないことではあるけれど。

(有川 浩『レインツリーの国』)

ご存知ですか、図書館の使い方

ぜひ積極的に図書館を利用しましょう



学習のための多様な活動空間

- 専門書、一般書、小説
- 電子ジャーナル、データベース
- パソコン、プリンタ
- インターネット、校内Wi-Fi
- 広い机、ホワイトボード
- ミーティングルーム

開館日時

平日8:30~20:00 土曜13:00~17:00

テスト期間中の土日祝日13:00~20:00

長期休業中は平日8:30~17:00 土日祝日は閉館



本を借りる

 貸出期間は2週間、貸出冊数は5冊で、貸出には学生証が必要です。

 返却は図書館カウンターもしくは寮のブックポストに返却してください。

Topics!



図書館ツイッターやっています。

@TsuyamaKosenLib



図書館にある本を探す

 蔵書検索（OPAC）で請求記号を調べて、その記号の書棚の場所に行きましょう。

 書棚の本は分野別に並んでいるので、興味がある分野の書棚を探してみましょう。

市立図書館の本を取り寄せる

 市立図書館蔵書検索（OPAC）で予約し、受取場所を本校に指定しましょう。



Topics!



図書館のミーティングルームには寄贈された備前焼の蘭引（らんびき）が展示されています。蘭引とは江戸時代に使用された蒸留器で、酒や水を蒸留して精製し、アルコールや蒸留水を得るための道具です。



本をリクエストする

📖 学生希望図書の申込用紙を図書館カウンターに提出しましょう。

論文を調べる

📖 図書館WEBサイト記載の電子ジャーナル・データベースを利用してみましょう。

過去の卒業研究を閲覧する

📖 令和3年度より電子化されています。それ以前の場合は図書館奥の集密書架にあります。閲覧したい場合は図書館カウンターで相談してください。なお、一部を除き、持出・複写不可です。

情報機器を利用する

📖 プリンタは両面印刷可能、カラー印刷はできません。大量印刷は控えましょう。

📖 ノートPCを図書館カウンターで貸出しています。

📖 校内Wi-Fiの使用は総合情報センターでの申請が必要です。

グループで学習する

📖 ミーティングルームが利用できます。図書館カウンターで予約、申し込めましょう。

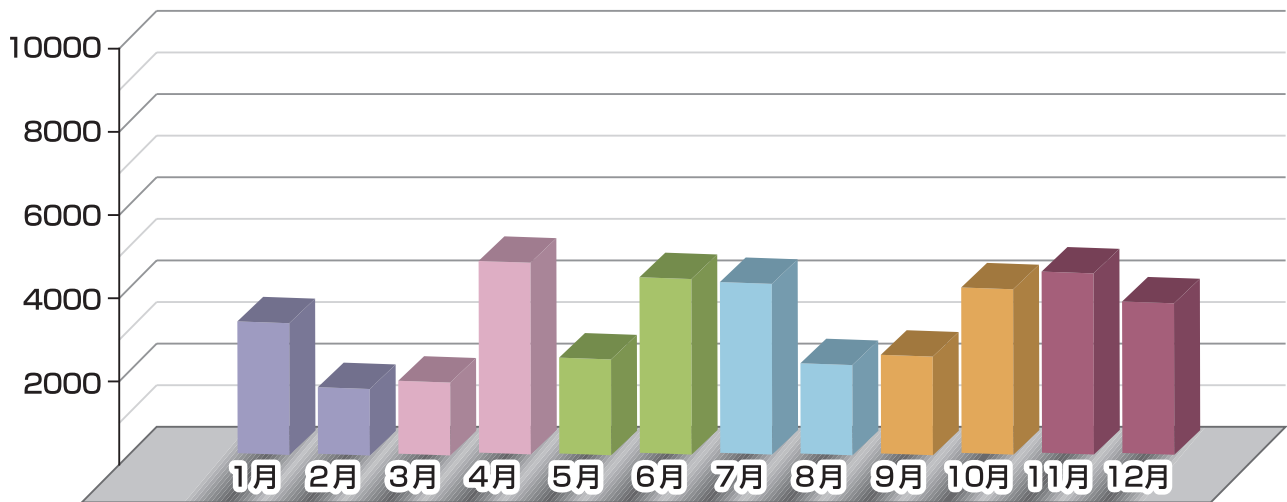
守ってほしいルール

📖 飲食禁止（フタつき容器の飲物のみ可）

📖 携帯電話等での通話禁止

📖 大声で話すなどの迷惑行為禁止

入館者数 2022

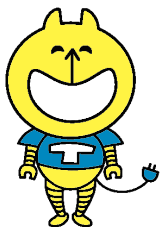


貸出ランキング 2022

(期間：2022年1～12月)

No.	書 名	著 者	出版社
1	公式TOEIC Listening & Reading問題集	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会
2	編入数学徹底研究	桜井基晴	聖文新社
3	大学編入試験問題数学/ 徹底演習	林義実, 小谷泰介	森北出版
4	良いコード/悪いコードで学ぶ 設計入門	仙場大也	技術評論社
5	有機化学	John McMurry	東京化学同人

編集後記



図書館報第52号をお読みいただきありがとうございます。この度、図書館報班の班長を務めさせていただきました。初めての図書館報制作で、知識のない自分でしたが沢山の人の協力をいただき、無事に本館報を発行することができました。

自分はこれまでに、図書館を利用する機会が沢山あり、本校の図書館を大変重宝していました。そのなかで本を借りる機会は少なく、本館報を制作するにあたり、沢山の面白い本を知ることができ、実際に手に取ってみて本を借りる機会が生まれました。本校の学生で、図書館を利用する人は沢山いると思いますが、テスト勉強やレポート作成の際に利用する学生が多数であると思います。そこで、機会があれば図書館の本を借りてみてはいかがでしょうか。

最後に、改めて原稿依頼を快く引き受けてくださった先生方、本館報の制作に関わってくださった皆様に深くお礼を申し上げます。

(機械システム系5年 亀山 郁弥)

発行

独立行政法人 国立高等専門学校機構
津山工業高等専門学校図書館